



編集	SEF事務局
連絡先	080-8865-0951
URL	http://sef-jpn.org

**巻頭のこぼれ「ミーニング・オブ・ライフ(人生の意味)」**

**専務理事 黒澤東雄**

関東地方もとうとう梅雨入りし、紫陽花の花だけが静かにこの鬱陶しい季節を優しく彩って呉れている。この時期には人々は何かもの想いにふけりたくなるものらしい。「人生100年」と「テクノロジー新時代」が同時進行する「令和」、我々はこれにどう備えるか・・・。国連の推計によると、2007年に日本で生まれた子供の半分は、107歳以上生きることが予想されるという。また現在50歳未満の日本人の殆どは100歳以上生きるといふ。これはこれまでの人類史の価値観やシステムが概ね「人生50年」を前提に築かれて来た事実からも、また長く続いた日本独特の生涯文化:①教育 ②仕事 ③引退 の3つのステージを着実に踏み外すことなく歩むという人生モデル(生活様式)からも大きく逸脱することとなる。すなわち「確実性」の人生から「多様性」の人生への設計変更が強いられることとなる。一方急速に進むテクノロジーの面でいうと「令和」はAIやロボットやIOTの実用化で従来の職を失う人々が大量に出現し、新たなセカンドスキルを身につけなければ相応しい職に就けなくなるという。キャッシュレスや仮想通貨、さらには無人の自動運転車が日常の生活を途方もなく変えてゆくだろう。職のシェアリングが一般的になり、あれこれ社会生活の安定に向けたシステム変更を考えると、UBI(ユニバーサル・ベーシック・インカム)、即ち「すべての国民に生活のために必要な収入を保証する制度」の導入が現実になってくるのか。そうすると人々は働くのをやめてしまうのだろうか。確かにAIはさらに格段と進歩して行くのは間違い無く、従って我々の領域は更に限定されてきそうだが。とは言えAIは与えられた課題の解決に向かって動き出すもので「ミーニング・オブ・ライフ」を我々に与えてくれはしない。「生きる意味って何だろう」と考えられるのは人間だけの特権だ。経済的価値を重視して生きることが幸せであると云ってきた従来型の資本主義に対して、「自分の生き方の価値を高めるためにどう働けばいいのか」を考えるのにとっても面白い時代の到来であろうか。そんな環境におかれた我々はSEFでの活動を通じて仲間である会員にも外の社会にも、この時代の要請に相応しい意義と貢献で応えて行けるのだろうか。

**6月度理事会より (第189回 6月12日)**

**事務局**

1. 横河商事社 社員教育の講師依頼 →可決承認	4. 事務局主催の会議での会議室予約の引継ぎ→報告了承
2. 月島環境エンジニア社 海外業務支援契約更新 →可決承認	5. 総合ハイテック社 営業支援業務契約終了 →報告了承
3. 2019年4月・5月度会計収支報告 →報告了承	6. 第17期決算報告書追加説明の打合せ →報告了承

**臨時理事会より (第190回 6月12日)**

**事務局**

1. 理事長及び専務理事の選出 →可決承認	3. 第17回通常総会議事録承認 →可決承認
2. 第18期(2019年度)総会後の体制 →可決承認	

**事業報告 (業務支援事業部 G4)**

**担当理事 松下隆**

この度、新しく理事を拝命致しました松下隆です。新しく創設された業務支援事業部のグループ4を担当致します。グループ4は新規開拓活動が主でリンカーズ社のビジネスマッチング事業や技術リサーチサポート事業、そして新規支援会社の探索、新規組織/団体との事業連携の開拓などを活動していきます。特にリンカーズ社とのビジネスマッチング事業についてはいろいろな分野の企業からの技術ニーズに対応することにより、①SEF 会員メンバーの活躍の場が増える、②メンバー内に候補者が見つからなければ会員の関係する企業や人脈を活用することにより仲間が増える、③最近の産業のトレンドや業界の動きが分かるなどが期待出来ます。今後ともご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

**SEFサロン (第112回案内)**

**担当理事 白崎善宏**

《 第112回:ご案内 》  
 日時:2019年7月24日(水) 18時 場所:青学会館内アイビーホール 1F「フェリア」  
 演題:「次世代自動車技術に関する将来展望」  
 講師:大聖 泰弘氏 早稲田大学名誉教授 研究院 次世代自動車研究機構 研究所顧問

自動車は、都市の大気汚染や地球温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>の主要な排出源とされている。メーカーにとっては、今後の燃費基準の強化に対応すべく、ガソリン車やディーゼル車の一層の燃費改善が重要な課題とされている。加えて、中長期的な課題として、ハイブリッド車(HV)や外部充電が可能なプラグインハイブリッド(PHV)、電気自動車(EV)、さらには燃料電池自動車(FCV)等の電動化を中心とする次世代自動車の実用化と普及が必要。電動化に向けて重要な課題を抱えている乗用車に焦点を絞って過去も含めた背景を探り、今後の解決方策について展望する。

**6月度会員動向**

**事務局**

会員入退会 なし	6月末日現在の会員数 正会員：28名、準会員：43名、賛助会員：4社
-------------	---------------------------------------